

県民意識調査 少子高齢社会 報告書

(2002年6～7月調査)

調査の設計	1
結果の概要	5
質問ごとの内容	8
調査票	16

埼玉県立大学 社会福祉調査教室
社団法人 長野県世論調査協会

調査の設計

調査の目的

環境、経済、教育、自殺...現在の日本は、歴史上かつてないほど“警告”がたくさん発せられています。とりわけ「少子・高齢化」は人々が身近に関心を抱く最大の問題に位置づけられます。

高齢化の主要な原因は少子化にあります。その少子化の原因である出産は個人の権利であり、けっして侵してはならないものです。しかし、徹底して個人主義を貫くと、社会全体の崩壊に行き着きかねません。

決定的な解決策はなさそうですが、現在の対応策の中心には「共生」があります。各自の利益を生かしていくには、効率はよくありませんが上からの「強制」を回避しつつ「調整」による「共生」をとるのです。

このように少子・高齢化問題の困難さは、個人主義ライフスタイルと社会全体の生存の“葛藤”にあります。人々はこれについて、どのような意識をもっているのでしょうか。まず、そのことを知りよりよい解決策の手がかりを得ていくために、埼玉県立大学社会福祉調査教室（坂井博通助教授）と社団法人長野県世論調査協会が協力して、世論調査を行うことにしました。

調査の設計

調査地域	長野県全域（17市17町15村）
調査対象	満20歳以上の男女
標本数	1,500人
抽出方法	選挙人名簿から層化2段無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	2002年6月10日～7月9日

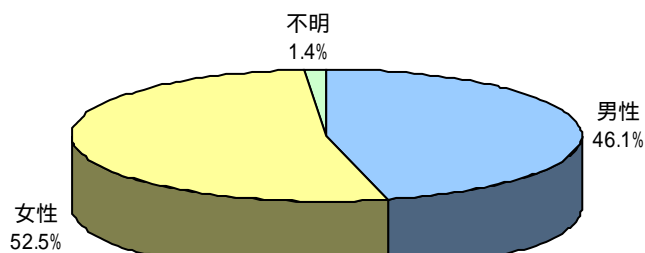
回収結果

回収数	862
回収率	57.5%

サンプルの内訳

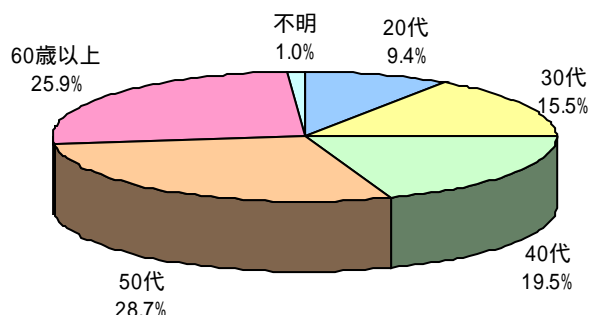
【性別】

男性	397	46.1%
女性	453	52.5%
不明	12	1.4%



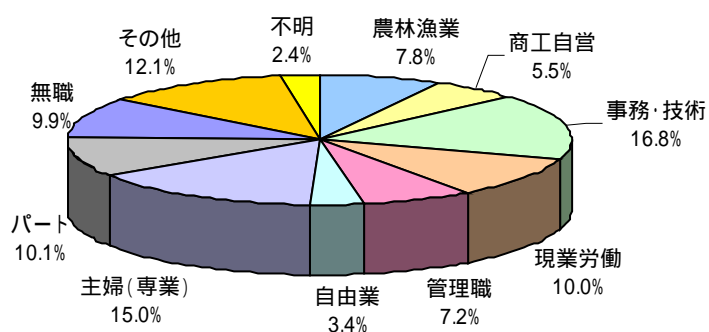
【年代】

20代	9.4%
30代	15.5%
40代	19.5%
50代	28.7%
60歳以上	25.9%
不明	1.0%



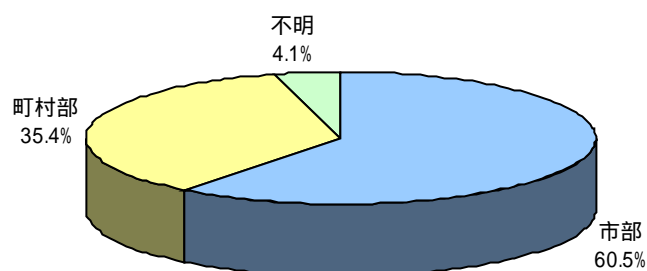
【職業】

農林漁業	7.8%
商工自営	5.5%
事務・技術	16.8%
現業労働	10.0%
管理職	7.2%
自由業	3.4%
主婦(専業)	15.0%
パート	10.1%
無職	9.9%
その他	12.1%
不明	2.4%



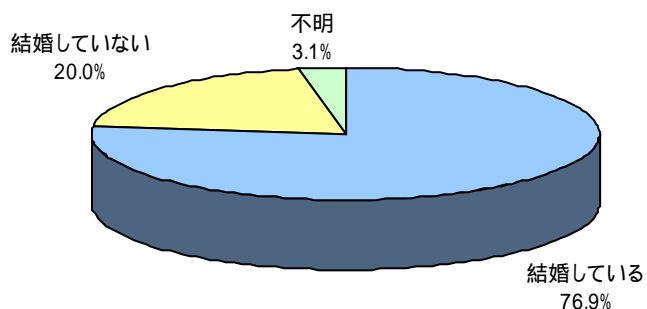
【市郡別】

市部	60.5%
町村部	35.4%
不明	4.1%



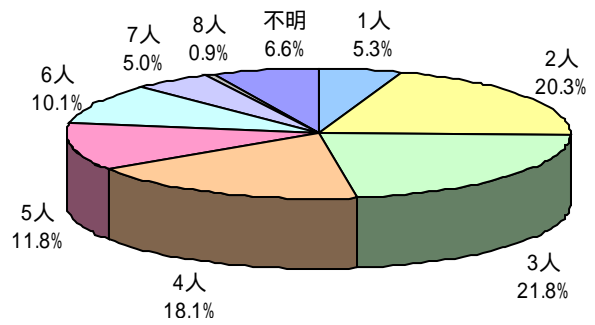
【結婚の有無】

結婚している	76.9%
結婚していない	20.0%
不明	3.1%



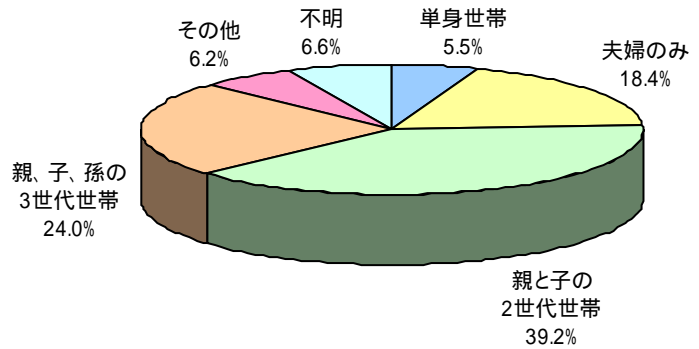
【同居家族の人数】

1人	5.3%
2人	20.3%
3人	21.8%
4人	18.1%
5人	11.8%
6人	10.1%
7人	5.0%
8人	0.9%
不明	6.6%



【家族構成】

単身世帯	5.5%
夫婦のみ	18.4%
親と子の2世代世帯	39.2%
親、子、孫の3世代世帯	24.0%
その他	6.2%
不明	6.6%



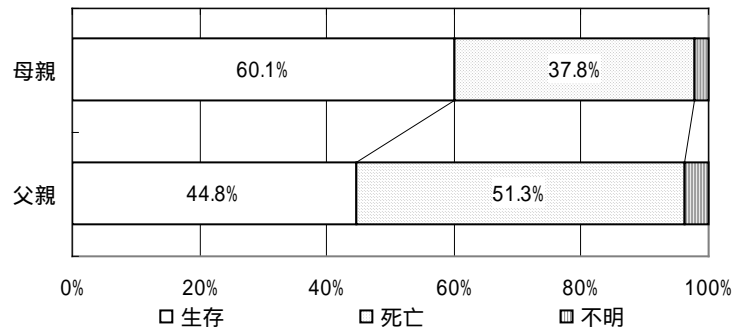
【両親について】

< 母親 >

生存	60.1%
死亡	37.8%
不明	2.1%

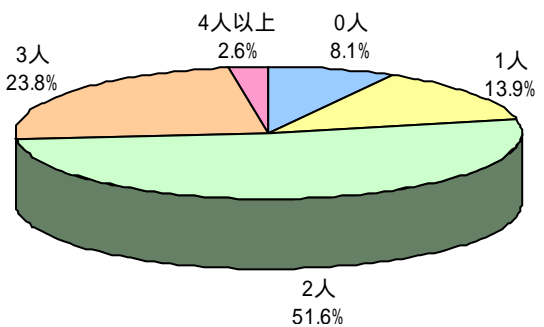
< 父親 >

生存	44.8%
死亡	51.3%
不明	3.9%



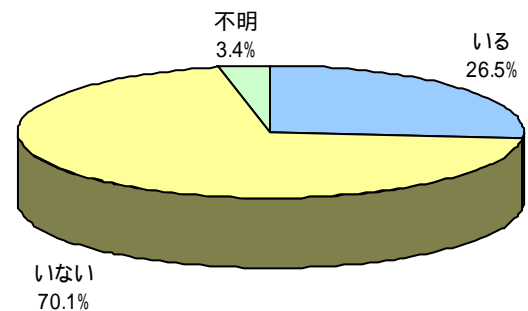
【子どもの人数】

0人	8.1%
1人	13.9%
2人	51.6%
3人	23.8%
4人以上	2.6%



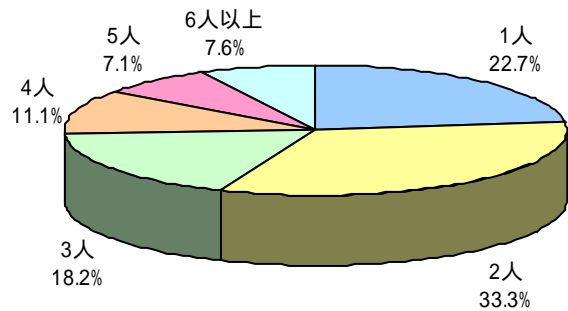
【孫の有無】

いる	26.5%
いない	70.1%
不明	3.4%



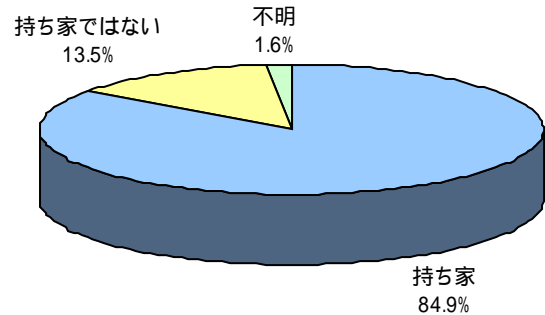
【孫の人数】

1人	22.7%
2人	33.3%
3人	18.2%
4人	11.1%
5人	7.1%
6人以上	7.6%



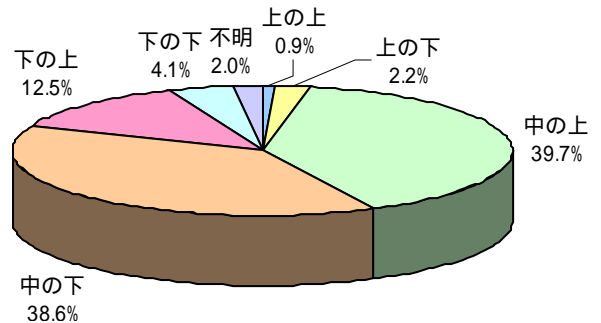
【持ち家の有無】

持ち家	84.9%
持ち家ではない	13.5%
不明	1.6%



【暮らしぶり】

上の上	0.9%
上の下	2.2%
中の上	39.7%
中の下	38.6%
下の上	12.5%
下の下	4.1%
不明	2.0%



< 設問・まとめの留意点 >

スプリット・ハーフ法

本調査は、「スプリットハーフメソッド」を試した質問項目があります。この方法は、主に類似用語の差異を見る時に用いられます。たとえば、本調査の問3では「高齢期」と「老後」という言葉がもつ意味を調べるために、半数の人には「高齢期はいつごろ始まるか」と尋ね、残りの半数の人には「老後はいつごろ始まるか」と尋ねています。

それならば、「高齢期」と「老後」の両方を尋ねて比較すればよいではないかと言われそうですが、2つをならべて1人に尋ねると、最初の回答に自分が引きずられて、別の回答をしてしまうということが考えられます。そこで、そのような時は、このように調査対象者をランダムにグループに分けて尋ねるのです。これを「スプリットハーフメソッド」と呼んでいます。

データの取り扱い

結果は原則として百分率で表示してある。図表や解説の百分率は小数第2位を四捨五入してあるため、合計が100%にならないことがある。

質問末尾に(は3つまで)や(はいくつでも)とある場合には、百分率の合計は100.0%を超える。

問2と問24を除くすべての質問は、主に国が行った調査の質問と同一の質問である。したがって、本調査の単純集計と比較することで、長野県の意識の特徴を見ることができる。

結果の概要

高齢社会

高齢化・老後への関心

日本社会における高齢化の進行は95%が実感しており、関心の度合いも同様に高レベルを示した。

高齢化の実感から「10年後の社会の活力」を見通すと、男性では「活力が減っている」が半数を突破し、危機感が露わだが、女性では「減っている」が「変わらない」と4割台で拮抗する。

高齢期・老後とは

高齢期とは、という聞き方では「70歳以上」が最も多く「65歳以上」が僅差で続く。しかし、老後とは、という質問には「65歳以上」が逆転して一番手に上がる。

その始まりのきっかけは「仕事からの引退」「年金の受給」「身体の衰え」の3大要素となっている。

高齢期・老後の暮らし

家庭は「どの子どもでもよいから同居か、近くに住む」が最も多い半面、2番目には「子どもとは別居」が入った。

暮らしの心構えとしては「気持ちを若々しく」と「高齢にとらわれず、自由に考え行動する」の2つが優位で「年齢相応に」や「周囲に合わせて」は振るわない。

高齢期と仕事・家事

「働けるだけ働きたい」が過半数にのぼり、2番目には「65歳くらいまで」が入ったが「60歳まで」と「70歳まで」とはわずかな差しかない。

働けなくなった場合の暮らし方は「子どもと一緒に」と「子どもの近くに住む」が上位に並んだ。生活費は「主に年金・恩給に頼る」が6割台と圧倒的。「自分の貯金や財産で」が続き「子どもに面倒をみてもらう」はごく少ない。

高齢者介護

高齢者対象に限らず、介護をした経験のある相手は「自分の母」と「自分の父」が上位に挙げられ「配偶者の母」と「自分の祖父母」が次の部類に属する。

高齢者介護に対する社会的な支援は「積極的に支援する必要がある」が48%と最も多く「ある程度支援すべき」が37%、「基本的に社会が担う」13%で、なんらかのかたちで社会の支援を求める声は圧倒的多数を占めた。

また、男性が介護休業を取ることについては「積極的に」だけで半数近くにのぼり「どちらかといえば取った方がよい」を合わせると9割を突破する。

少子社会

少子化への関心

「とてもある」単独で半数を超し「多少ある」を加えると9割に達する。高齢化に強い関心のある人の8割は少子化にも関心を示すが「あまりない」人では、少子化にも関心はないが半数を占める。

理想的な子どもの数

「3人」が最も多く6割に迫り、次いで「2人」が3割台。「1人」や「子どもはいらない」はごく少ない。若い年代層の方で人数が少なめで、女性の方がわずかながら多めという傾向がみられる。

子育ての役割

「主に母親」がほぼ4割にのぼるが「父母が協力して同じくらい携わる」がそれを上回り4割台。「父母の協働」には20代で7割半ばを占めるが、年代層が上がるほどに減り、60歳以上では「主に母親」が逆転する。

子育てと仕事・育児休業

賃金・ポストと育児とのバランスで、はっきり「育児優先」を選択するのは27%。待遇に満足できなくても「育児に使える時間を確保できるように」といった折れ合いをつける立場は、倍以上の56%にのぼる。他方「仕事優先」は15%。

男性が育児休業を取ることについては「積極的に」が4割。「どちらかといえば取るのがよい」を加えると8割近いが、介護休業に比べると10ポイント以上下回る。

社会経済への少子化の影響

「社会保障などで若い人の負担が増える」を最も多くの人指摘。2番目の「人口の減少で活力が低下」にわずかな差で「地域によっては過疎化が進む」が続く。「ごみなど環境問題」や「受験競争」の緩和といったプラス効果はごく少なく、マイナス面との落差が際立つ。

結婚と家族・家庭

結婚・離婚観

「一生独身より結婚した方がよい」が9割近くを占め「女性の幸せは結婚だから、する方がよい」という考え方には「賛成」が7割を突破。その一方で「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」が6割を超える。

「夫は外、妻は家庭」の役割分担や「女性は結婚したら自分より家族を中心に考える」には賛否が伯仲する。女性は仕事を持って「家事・育児はきちんと」という考えには8割が賛成。その半面「男性も家事をするべきだ」は9割半ばにも達する。

離婚については、「相手に満足しない場合は踏み切ればよい」という考えには「反対」が6割近くで「性格の不一致ぐらいで別れるべきでない」には6割強が同調する。「離婚は女性にとって不利」との受けとめは6割半ばにのぼる。

女性の晩婚化の理由では「仕事を持ち経済力が向上」が8割近くにのぼりトップ。「独身の方が自由」が6割台で続く。「結婚しないことへの世間のこだわりが少なくなった」が3番目に挙げられた。

理想の家庭像

「夫婦・子どものみと同居し、親が近くに住む」が一番多いが、続く「親・子・孫など同居の大家族」との差はあまりない。その一方で「夫婦・子どものみ」は1割にも満たない。

家庭の持つ意味については「家族団らん」と「休息・やすらぎ」が上位に並んだ。しかし「子どもを生み育てる場」や「子どもをしつける場」としての評価はそろって低い。

子どもとの暮らし

「結婚しても子どもを持つ必要はない」(問16-E)という考えはほぼ4割にのぼるが、子どもを持ち育てる意味として、それを通じて「自分が成長する」を筆頭に「次世代をつくる」「家族の結びつきを強める」が上位にランクされた。

子どもへの面倒見の時期は「就職するまで」が最も多く3分の1を占め、二番手には「大学を出るまで」が入った。「結婚をして、生活が安定するまで」はごく少ない。

望ましいライフスタイル

「金や名誉より趣味にあった暮らし方」が半数にのぼり、2位は「日々をのんきに暮らす」。これらと対照的な「一生懸命に働き、金持ちに」が1割強で3位に食い込んだ。

10年後の日本

少子・高齢化の時代にまつわる20項目を列挙し、10年後を展望してもらった中で、社会の活力は「減っている」が半数に迫る。人々の表情も「暗く」が「明るく」よりもぐんと上回る。

プラス的方向が上回ったのは「定年延長」と「受験競争の緩和」の2項目のみ。

マイナス的方向では、結婚に関する項目で顕著になっており、未婚者や離婚、未婚の母が「増えている」が7割以上を占める。高齢者についても深刻な見通しがめだち「寝たきり」「年金不払い」の圧倒的な増加を予測。少子化の関連でも、出生率の低下とともに、妊娠中絶や不妊女性、人工授精が軒並み「増えている」が優勢になっている。

単純集計

「実感したことがある」9割半ば

問1 あなたは、日本で高齢化が進んでいると実感したことがありますか (n=844)	
ある	94.9%
ない	5.1%

「とてもある」半数を突破

問2 あなたは、65歳以上の人口が全人口に占める割合が増加している「高齢化」について関心がありますか (n=849)	
とても関心がある	52.4%
多少関心がある	41.7%
あまり関心がない	5.6%
全く関心がない	0.2%

「仕事の引退」「年金受給」「身体不自由」が上位に

問3 あなたは、「高齢期」はいつごろから始まると思いますか (n=423)	
年金を受給するようになった時期	32.1%
身体の不自由がきかないと感じるようになった時期	29.3%
仕事から引退したり現役の第一線を後継者に譲った時期	23.9%
子どもなどに扶養されるようになった時期	10.1%
子どもが結婚したり独立した時期	2.6%
寝たきりや痴呆性老人になった時期	1.2%
配偶者と死別した時期	0.7%

問3 あなたは、「老後」はいつごろから始まると思いますか (n=422)	
仕事から引退したり現役の第一線を後継者に譲った時期	33.9%
年金を受給するようになった時期	25.6%
身体の不自由がきかないと感じるようになった時期	23.5%
子どもなどに扶養されるようになった時期	9.7%
子どもが結婚したり独立した時期	5.2%
寝たきりや痴呆性老人になった時期	1.2%
配偶者と死別した時期	1.0%

高齢期「70代以上」 老後「65歳以上」が最も多く

問4 では、年齢で言うと「高齢期」は何歳位の人だと思いますか (n=423)	
60歳以上	11.8%
65歳以上	29.3%
70歳以上	33.8%
75歳以上	11.3%
80歳以上	4.9%
一概にいけない	8.7%

問4 では、年齢で言うと「老後」は何歳位の人だと思いますか (n=424)	
60歳以上	15.1%
65歳以上	33.3%
70歳以上	27.4%
75歳以上	7.8%
80歳以上	2.6%
一概にいけない	13.9%

「子のだれかと同居か、近くに」37% 「子とは別居」23%

問5 あなたは、一般的に老後は誰とどのように暮らすのがよいと思いますか (n=837)	
どの子(夫婦)でもよいが同居か近くに暮らす	36.9%
子どもたちとは別に暮らす	23.1%
息子(夫婦)と同居する	13.4%
息子(夫婦)の近くに住む	11.5%
娘(夫婦)の近くに住む	8.0%
娘(夫婦)と同居する	3.4%

「積極的に取るのがよい」だけでも4割台

問6 育児や家族介護を行うために育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取ることについてあなたはどのように思いますか	
A 育児休業 (n=806)	
積極的に取った方がよい	40.5%
どちらかといえば取った方がよい	37.6%
どちらかといえば取らない方がよい	18.5%
取らない方がよい	3.5%
B 介護休業 (n=810)	
積極的に取った方がよい	48.4%
どちらかといえば取った方がよい	42.1%
どちらかといえば取らない方がよい	8.0%
取らない方がよい	1.5%

「積極的に」 - 介護で48% 子育てでは19%

問7 あなたは、高齢者介護に対する社会による支援について、どのようにお考えになりますか (n=414)	
家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある	48.1%
基本的に家族が行うことではあるが、社会がある程度支援する必要がある	37.4%
家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである	13.3%
基本的に家族が行うことであり、社会が支援する必要はない	0.5%
その他	0.8%

問7 あなたは、子育てに対する社会による支援について、どのようにお考えになりますか (n=418)	
家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある	18.7%
基本的に家族が行うことではあるが、社会がある程度支援する必要がある	68.7%
家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである	4.6%
基本的に家族が行うことであり、社会が支援する必要はない	7.7%
その他	0.5%

「気持ちを若く」と「自由に考え主体的に行動」並ぶ

問8 あなたは、ご自分の高齢期には、どのような心構えで生活するのがよいと思いますか (n=413)	
高齢になっても気持ちを若々しく保つ	38.0%
年齢にとらわれず自由に生き方を考え、主体的に行動する	37.5%
高齢になったら年相応の生活をする	17.7%
家族など周囲に合わせた生活をする	6.8%

問8 あなたは、ご自分の老後には、どのような心構えで生活するのがよいと思いますか (n=420)	
高齢になっても気持ちを若々しく保つ	40.5%
年齢にとらわれず自由に生き方を考え、主体的に行動する	39.0%
高齢になったら年相応の生活をする	12.6%
家族など周囲に合わせた生活をする	7.9%

「働けるかぎり」半数を突破

問9 あなたは、何歳くらいまで仕事(家事を含む)をしたいとお考えですか (n=834)	
55歳くらいまで	1.4%
60歳くらいまで	10.1%
65歳くらいまで	18.4%
70歳くらいまで	14.7%
75歳くらいまで	3.7%
働けるだけ働きたい	51.8%

「子と一緒に」か「近くで」ともに3割 「主に恩給・年金」6割台

問10 あなたは老後働けなくなったらどのように生活しようと思えますか	
A 暮らし方について (n=828)	
子どもと一緒に暮らす(二世帯住宅の場合も含む)	32.0%
子どもの家のすぐ近くに住む	31.2%
子どもと別に暮らす	23.4%
高齢者用施設に入る	13.3%
B 生活費について (n=831)	
主として年金や恩給に頼る	63.0%
主として自分の貯金や財産で暮らす	27.2%
主として子どもに面倒をみてもらう	4.6%
あてがない	5.3%

「とてもある」だけでも半数を超す

問11 あなたは、出生率の低下により子どもの数が少なくなっている「少子化」について関心がありますか。(n=832)	
とても関心がある	52.3%
多少関心がある	37.6%
あまり関心がない	9.6%
全く関心がない	0.5%

「3人」が最も多く6割弱 「2人」が3割強

問12 あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか (n=831)	
子どもはいらない	1.9%
1人	1.2%
2人	33.2%
3人	58.2%
4人	4.6%
5人以上	1.0%

「父母が同程度で」4割半ば 「主に母親」を上回る

問13 一般論として、子どもが3歳くらいまでの小さいうち、家庭では主に父親と母親のどちらが子育てに携わるのがよいと思えますか (n=832)	
父母が同じくらい協力して携わるのがよい	45.3%
主に母親が携わるのがよい	38.6%
その家庭の状況に応じて父母以外が関わってもよい	15.4%
主に父親が携わるのがよい	0.4%
その他	0.4%

「不満があっても育児時間を確保」半数超す

問14 仮に、あなたが子育て期に働くとした場合、賃金やポスト(地位)などの処遇と育児との関係ではどのように働きたいと思えますか (n=818)	
賃金やポストに満足できない点があっても、育児に使える時間を確保できるように働く	55.5%
賃金やポストより、育児に使える時間を優先させて働く	27.4%
育児に使える時間がなくなっても、満足できる賃金やポストを得ることを優先させ働く	14.8%
その他	2.3%

「社会保障など若い人の負担増」断然トップ

問15 少子化はわが国の社会経済にさまざまな影響を及ぼすことが予想され、次のような指摘や意見があります。あなたの考えに近いものをあげてください(3つまで) (n=412)	
社会保障負担など若い人の負担が増えること	86.7%
人口の減少に伴い社会全体の活力が低下すること	56.8%
地域により過疎化が一層進むこと	54.6%
労働力人口の減少などにより経済成長が鈍化する可能性があること	42.2%
子供同士が触れあう機会が減ること	28.6%
大都市部での住宅・土地問題や交通混雑など過密に伴う諸問題が改善すること	4.4%
ゴミの量が減るなど環境問題が緩和すること	3.4%
受験競争が緩和すること	1.9%
その他	1.5%
特に大きな影響はないと思う	1.5%

「結婚はしてもしなくても」6割突破

問16 結婚、家庭、離婚についての考え方について、あなたのご意見に最も近いものはどれでしょうか	
A なんといっても女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚する方がよい (n=803)	
賛成	19.9%
どちらかといえば賛成	54.4%
どちらかといえば反対	17.5%
反対	8.1%
B 結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい (n=803)	
賛成	33.2%
どちらかといえば賛成	29.7%
どちらかといえば反対	28.0%
反対	9.1%
C 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (n=796)	
賛成	13.0%
どちらかといえば賛成	37.3%
どちらかといえば反対	31.4%
反対	18.2%
D 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい (n=798)	
賛成	11.4%
どちらかといえば賛成	37.8%
どちらかといえば反対	33.1%
反対	17.6%
E 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない (n=798)	
賛成	18.1%
どちらかといえば賛成	20.9%
どちらかといえば反対	39.5%
反対	21.5%
F 女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである (n=809)	
賛成	36.3%
どちらかといえば賛成	43.7%
どちらかといえば反対	15.7%
反対	4.2%
G 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい (n=794)	
賛成	14.3%
どちらかといえば賛成	27.1%
どちらかといえば反対	42.8%
反対	15.9%
H 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である (n=772)	
賛成	26.7%
どちらかといえば賛成	38.7%
どちらかといえば反対	23.4%
反対	11.1%
I 男性も身の回りのことや家事をするべきだ (n=796)	
賛成	55.2%
どちらかといえば賛成	39.7%
どちらかといえば反対	3.9%
反対	1.2%
J 一生独身でいるより、結婚した方がよい (n=800)	
賛成	41.5%
どちらかといえば賛成	46.3%
どちらかといえば反対	8.3%
反対	4.0%
K いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない (n=797)	
賛成	22.1%
どちらかといえば賛成	39.2%
どちらかといえば反対	26.6%
反対	12.2%

「経済力の向上」と「独身の方が自由」が上位に

問17 わが国では晩婚化が進んでいますが、女性の晩婚化の理由についてあなたはどのようにお考えですか(いくつでも) (n=826)	
仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した	78.9%
独身生活のほうが自由である	63.9%
結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった	47.7%
家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい	38.9%
仕事のためには、独身の方が都合がよい	31.7%
親離れができていない	22.9%
相手に高望みをしている	22.0%
きょうだいの数が減ったことや一人っ子どうしが増えたために、婚姻による改姓が障害となっている	13.4%
社会慣行としての見合いが減少した	12.0%

3大理由「自分が成長する」「次世代を作る」「家族の結びつき」

問18 あなたにとって、子どもを持ち、育てるといことはどのような意味を持っていますか(3つまで) (n=815)	
子どもを持ち、育てることによって自分が成長する	62.8%
次の社会を担う世代を作る	56.1%
家族の結びつきを強める	48.3%
自分の生命を伝える	28.5%
子どもを育てるのは楽しい	17.9%
家の存続のため	16.8%
夫婦は子どもを持つはじめて社会的に認められる	10.9%
自分の志を継いでくれる後継者を作る	10.1%
老後の面倒をみてもらう	6.7%
子どもは働き手として必要である	2.9%

「就職するまで」トップ 「結婚するまで」は4番手

問19 今の世の中では親は子どもの経済的な面倒をいつごろまでみなければならぬと思いますか (n=832)	
就職をするまで	33.9%
大学を出るまで	24.9%
20歳になるまで	11.2%
結婚をするまで	7.3%
高校を出るまで	6.6%
結婚をして、生活が安定するまで	2.5%
中学校を出るまで	0.1%
その他	0.5%
一概にいけない	11.5%
わからない	1.4%

“多世代家族”好み鮮明 「親子のみ」は1割に届かず

問20 あなたの理想の家族像はどのようなものですか (n=823)	
夫婦と子どものみで住んでいるが、親の近くに住む(2世帯同居も含む)	46.3%
親、子ども、孫等が同居している大家族	41.8%
夫婦と子どものみで暮らす	8.4%
その他	3.5%

「団らん」「安らぎ」が優位 「子育て」「しつけ」振るわず

問21 あなたにとって家庭はどのような意味をもっていますか(いくつでも) (n=829)	
家族の団らんの場	69.6%
休息・やすらぎの場	67.1%
家族の絆を強める場	55.2%
親子がともに成長する場	52.7%
夫婦の愛情をはぐくむ場	27.9%
子どもを生み、育てる場	23.5%
子どもをしつける場	21.4%
親の世話をする場	8.0%
その他	1.7%

「金・名誉より趣味的な暮らし方」が約半数

問22 人の暮らし方について、あなたの気持ちに近いものはどれですか (n=804)	
金や名誉を考えずに、自分の趣味にあった暮らし方をすること	49.3%
その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと	20.0%
一生けんめい働き、金持ちになること	10.6%
世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと	3.9%
自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと	2.9%
まじめに勉強して、名をあげること	1.5%
その他	11.9%

「自分の父母」全体の半数 「配偶者の父母」2割半ば

問23 次にあげる方の介護を経験したことはありますか(いくつでも) (n=850)	
自分の母	26.7%
自分の父	23.4%
配偶者の母	14.8%
自分の祖父や祖母	12.1%
配偶者の父	9.4%
配偶者の祖父や祖母	4.5%
自分の子ども	4.5%
自分の兄弟姉妹	4.4%
配偶者	4.1%

「定年延長」「受験緩和」などプラス的方向少なく

問24 現在と比べて10年後の日本はどのような状況になっているとお考えですか			
A 社会の活力 (n=806)		K 寝たきり老人 (n=818)	
増えている	8.2%	増えている	69.7%
現在と変わらない	44.6%	現在と変わらない	22.6%
減っている	47.3%	減っている	7.7%
B 人々の表情 (n=813)		L 年金を納めない人 (n=814)	
明るくなっている	8.7%	増えている	78.2%
現在と変わらない	54.9%	現在と変わらない	18.2%
暗くなっている	36.3%	減っている	3.6%
C 高齢者の暮らし向き (n=821)		M 同性愛 (n=782)	
よくなっている	14.7%	増えている	38.6%
現在と変わらない	28.6%	現在と変わらない	57.3%
悪くなっている	56.7%	減っている	4.1%
D 子育て環境 (n=813)		N 散骨する人 (n=783)	
よくなっている	20.8%	増えている	47.3%
現在と変わらない	37.4%	現在と変わらない	49.6%
悪くなっている	41.8%	減っている	3.2%
E 未婚者 (n=817)		O 出生率 (n=821)	
増えている	85.2%	上昇している	4.3%
現在と変わらない	12.1%	現在と変わらない	26.8%
減っている	2.7%	低下している	69.0%
F 離婚 (n=818)		P 人工妊娠中絶 (n=804)	
増えている	84.5%	増えている	55.2%
現在と変わらない	12.5%	現在と変わらない	38.9%
減っている	3.1%	減っている	5.8%
G 児童虐待 (n=809)		Q 不妊の女性 (n=806)	
増えている	61.5%	増えている	63.4%
現在と変わらない	29.5%	現在と変わらない	32.2%
減っている	8.9%	減っている	4.4%
H 高齢者虐待 (n=804)		R 人工授精 (n=796)	
増えている	55.8%	増えている	68.1%
現在と変わらない	37.0%	現在と変わらない	28.7%
減っている	7.1%	減っている	3.3%
I 未婚の母 (n=811)		S 子どもが育つ環境 (n=816)	
増えている	75.5%	よくなっている	18.5%
現在と変わらない	21.0%	現在と変わらない	36.2%
減っている	3.5%	悪くなっている	45.3%
J 定年 (n=815)		T 受験競争 (n=816)	
伸びている	45.3%	厳しくなっている	23.0%
現在と変わらない	30.6%	現在と変わらない	43.0%
短くなっている	24.0%	緩和されている	33.9%

調査票

少子高齢社会に関するアンケート

問1 あなたは、日本で高齢化が進んでいると実感したことがありますか。(は1つ)

- (ア) ある (イ) ない

問2 あなたは、65歳以上の人口が全人口に占める割合が増加している「高齢化」について関心がありますか。それとも関心はありませんか。(は1つ)

- (ア) とても関心がある (ウ) あまり関心がない
(イ) 多少関心がある (エ) 全く関心がない

問3 あなたは、「高齢期」はいつごろから始まると思いますか。(は1つ)

- (ア) 子供が結婚したり独立した時期
(イ) 仕事から引退したり、現役の第一線を後継者に譲った時期
(ウ) 年金を受給するようになった時期
(エ) 子どもなどに扶養されるようになった時期
(オ) 身体が自由がきかないと感じるようになった時期
(カ) 配偶者と死別した時期
(キ) 寝たきりや痴呆性老人になった時期

問4 では、年齢で言うと「高齢期」は何歳位の人だと思えますか。(は1つ)

- (ア) 60歳以上 (エ) 75歳以上
(イ) 65歳以上 (オ) 80歳以上
(ウ) 70歳以上 (カ) 一概にいえない

問5 あなたは、一般的に、老後は誰とどのように暮らすのがよいと思えますか。(は1つ)

- (ア) 息子(夫婦)と同居する (オ) どの子(夫婦)でもよいが同居か近くに暮らす
(イ) 息子(夫婦)の近くに住む
(ウ) 娘(夫婦)と同居する (カ) 子どもたちとは別に暮らす
(エ) 娘(夫婦)の近くに住む (キ) その他()

問6 育児や家族介護を行うために育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取ることにあなたはどう思いますか。(は1ずつ)

		積極的に取 った方がよい	どちらかとい えば取った方が よい	どちらか といえば取 らない方が よい	取らない 方がよい
A	育児休業				
B	介護休業				

問7 あなたは、高齢者の介護に対する社会による支援について、どのようにお考えになりますか。

(は1つ)

- (ア) 基本的に家族が行うことであり、社会が支援する必要はない
- (イ) 基本的に家族が行うことではあるが、社会がある程度支援する必要がある
- (ウ) 家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある
- (エ) 家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである
- (オ) その他()

問8 あなたは、ご自分の高齢期には、どのような心構えで生活するのが良いと思いますか。

(は1つ)

- (ア) 家族など周囲に合わせた生活をする
- (イ) 高齢になったら年相応の生活をする
- (ウ) 高齢になっても気持ちを若々しく保つ
- (エ) 年齢にとらわれず自由に生き方を考え、主体的に行動する

問9 あなたは、何歳位まで仕事(家事を含む)をしたいとお考えですか。(は1つ)

- (ア) 55歳位まで
- (イ) 60歳位まで
- (ウ) 65歳位まで
- (エ) 70歳位まで
- (オ) 75歳位まで
- (カ) 働けるだけ働きたい

問10 あなたは老後働けなくなったらどのように生活しようと思いますか

- (1) まず、暮らし方についてはどうですか。(は1つ)
 - (ア) 子どもと一緒に暮らす(2世帯住宅の場合も含む)
 - (イ) 子どもの家のすぐ近くに住む
 - (ウ) 子どもと別に暮らす(子どもがいない場合も含む)

(エ) 高齢者用施設にはいる

(2) では、生活費についてはどうですか。(は1つ)

- (ア) 主として子どもに面倒をみてもらう
- (イ) 主として年金や恩給などにたよる
- (ウ) 主として自分の貯金や財産で暮らす
- (エ) あてがない

問 11 あなたは、出生率の低下により子どもの数が少なくなっている「少子化」について関心がありますか。それとも関心はありませんか。(は1つ)

- (ア) とても関心がある
- (イ) 多少関心がある
- (ウ) あまり関心がない
- (エ) 全く関心がない

問 12 あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか。(は1つ)

- (ア) 子どもはいらない
- (イ) 1人
- (ウ) 2人
- (エ) 3人
- (オ) 4人
- (カ) 5人以上

問 13 一般論として、子どもが3歳くらいまでの小さいうち、家庭では主に父親と母親ではどちらが子育てに携わるのがよいと思いますか。(は1つ)

- (ア) 主に父親が携わるのがよい
- (イ) 主に母親が携わるのがよい
- (ウ) 父母が同じくらい協力して携わるのがよい
- (エ) その家庭の状況に応じて父母以外が関わってもよい
- (オ) その他()

問 14 仮に、あなたが子育て期に働くとした場合、賃金やポスト(地位)などの処遇と育児との関係ではどのように働きたいと思いますか。(は1つ)

- (ア) 育児に使える時間がなくなっても、満足できる賃金やポストを得ることを優先させ働く
- (イ) 賃金やポストに満足できない点があっても、育児に使える時間を確保できるように働く
- (ウ) 賃金やポストより、育児に使える時間を優先させて働く
- (エ) その他()

問 15 少子化は我が国の社会経済にさまざまな影響を及ぼすことが予想され、次のような指摘や意見があります。あなたのお考えに近いものを3つまであげてください。(は3つまで)

- (ア) 人口の減少に伴い社会全体の活力が低下すること
- (イ) 労働力人口の減少などにより経済成長が鈍化する可能性があること
- (ウ) 社会保障負担など若い人の負担が増えること
- (エ) 子ども同士が触れあう機会が減ること
- (オ) 地域により過疎化が一層進むこと
- (カ) 受験競争が緩和すること
- (キ) 大都市部での住宅・土地問題や交通混雑など過密に伴う諸問題が改善すること
- (ク) ゴミの量が減るなど環境問題が緩和すること
- (ケ) その他()
- (コ) 特に大きな影響はないと思う

問16 結婚、家庭、離婚についての考え方について、あなたのご意見をおうかがいします。次にあげるような考え方について、あなたの御意見に最も近いものはどれでしょうか。(は1つずつ)

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対
A	なんといっても女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚する方がよい				
B	結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい				
C	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである				
D	女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい				
E	結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない				
F	女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである				
G	結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい				
H	一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である				
I	男性も身の回りのことや家事をするべきだ				

J	一生独身でいるより、結婚したほうが良い				
K	いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない				

問17 我が国では晩婚化が進んでいますが、女性の晩婚化の理由についてあなたはどのようにお考えですか。(はいくつでも)

- (ア) 独身生活の方が自由である
- (イ) 結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった
- (ウ) 仕事のためには、独身のほうが都合がよい
- (エ) 仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上した
- (オ) 家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい
- (カ) 相手に高望みをしている
- (キ) 社会慣行としての見合いが減少した
- (ク) 親離れができていない
- (ケ) きょうだい数が減ったことや一人っ子どうしが増えたために、婚姻による改姓が障害となっている

問 18 あなたにとって、子どもを持ち、育てるといことはどのような意味を持っていますか。(は3つまで)

- (ア) 自分の生命を伝える
- (イ) 自分の志をついでくれる後継者をつくる
- (ウ) 家の存続のため
- (エ) 次の社会をになう世代をつくる
- (オ) 家族の結びつきを強める
- (カ) 老後の面倒をみてもらう
- (キ) 子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する
- (ク) 子どもを育てるのは楽しい
- (ケ) 夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる
- (コ) 子どもは働き手として必要である

問 19 今の世の中では親は子どもの経済的な面倒をいつごろまでみなければならぬと思いますか。(は1つ)

- (ア) 中学校を出るまで
- (イ) 高校を出るまで
- (ウ) 20歳になるまで
- (エ) 大学を出るまで
- (オ) 就職をするまで
- (カ) 結婚をするまで
- (キ) 結婚をして、生活が安定するまで
- (ク) その他
- (ケ) 一概にいけない
- (コ) わからない

問 20 あなたの理想の家族像はどのようなものですか。(は1つ)

- (ア) 親、子供、孫等が同居している大家族
- (イ) 夫婦と子供のみで住んでいるが、親の近くに住む(2世帯同居も含む)
- (ウ) 夫婦と子供のみで暮らす
- (エ) その他()

問 21 あなたにとって家庭はどのような意味をもっていますか。(はいくつでも)

- (ア) 家族の団らん(ア) 休息・やすらぎの場
- (イ) 子どもを生み、育てる場(キ) 親子が共に成長する場
- (ウ) 子どもをしつける場(ク) 家族の絆(きずな)を強める場
- (エ) 親の世話をする場(ケ) その他()
- (オ) 夫婦の愛情をはぐくむ場

問 22 人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、つぎにあげるもののうちで、どれが一番、あなた自身の気持ちに近いものですか。(は1つ)

- (ア) 一生けんめい働き、金持ちになること
- (イ) まじめに勉強して、名をあげること
- (ウ) 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をすること
- (エ) その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと
- (オ) 世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと
- (カ) 自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと
- (キ) その他()

問 23 あなたの介護経験についてうかがいます。次にあげる方の介護を経験したことはありませんか。

- (ア) 自分の祖父や祖母(エ) 配偶者(キ) 配偶者の母
- (イ) 自分の父(オ) 配偶者の祖父や祖母(ク) 自分の兄弟姉妹
- (ウ) 自分の母(カ) 配偶者の父(ケ) 自分の子ども

問 24 最後の質問です。現在と比べて 10 年後の日本はどのような状況になっているとお考えですか。A から T に関してそれぞれあてはまると思われる番号に をつけてください。(は 1 つずつ)

A	高齢者の暮らし向き	よくなっている	現在と変わらない	悪くなっている
B	子育て環境	よくなっている	現在と変わらない	悪くなっている
C	未婚者	増えている	現在と変わらない	減っている
D	離婚	増えている	現在と変わらない	減っている
E	児童虐待	増えている	現在と変わらない	減っている
F	高齢者虐待	増えている	現在と変わらない	減っている
G	未婚の母	増えている	現在と変わらない	減っている
H	定年	伸びている	現在と変わらない	短くなっている
I	寝たきり老人	増えている	現在と変わらない	減っている
J	年金を納めない人	増えている	現在と変わらない	減っている
K	同性愛	増えている	現在と変わらない	減っている
L	散骨する人	増えている	現在と変わらない	減っている
M	出生率	上昇している	現在と変わらない	低下している
N	人工妊娠中絶	増えている	現在と変わらない	減っている
O	不妊の女性	増えている	現在と変わらない	減っている
P	人工授精	増えている	現在と変わらない	減っている
Q	子どもが育つ環境	良くなっている	現在と変わらない	悪くなっている
R	受験競争	厳しくなっている	現在と変わらない	緩和されている
S	社会の活力	増えている	現在と変わらない	減っている
T	人々の表情	明るくなっている	現在と変わらない	暗くなっている

<フェイスシート> 2002年6月1日現在の事実に関してご記入ください。

F 1 あなたの性別・年齢 男性()歳 女性()歳

F 2 ご住所 ()市 ()町・村

F 3 ご職業 農林漁業 管理職 無職
 商工自営 自由業 その他
 事務・技術 主婦(専業) ()
 現業労働 パート

F 4 同居家族人数と構成 ()人 単身世帯 親、子、孫の3世代世帯
 夫婦のみ その他()
 親と子の2世代世帯

F 5 あなたのご両親 母親: 生存()歳 死亡
 父親: 生存()歳 死亡

F 6 あなたの結婚状況 している〔配偶者の年齢()歳〕 していない

F 7 あなたのお子さんの数と構成(別居の方も含めてください)
 ()人

	性別	年齢		性別	年齢
第1子	男 女	()歳	第4子	男 女	()歳
第2子	男 女	()歳	第5子	男 女	()歳
第3子	男 女	()歳	第6子	男 女	()歳

F 8 あなたのお孫さん いない いる()人

F 9 あなたのお住まい 持ち家 持ち家ではない

F 10 世間一般の暮らしぶりを6つに区分すると、あなたのお宅はどのあたりにあてはまると思いますか。
 上の上 上の下 中の上 中の下 下の上 下の下

調査にご協力いただき、たいへんありがとうございました。